小江戸川越で、「ちょっとした体験」学習に取り組みました

短期大学　三國ゼミナール（2年生）

1.小江戸川越での「ちょっとした体験」学習

「ちょっとした体験」学習の意義

1. ディプロマポリシーとゼミの取り組み

城西短期大学のディプロマポリシーでは、人間力を身につけるために、「**考える力**」「**協力する力**」「**前に踏み出す力**」を育成することを大きな目標としています。三國ゼミにおいても、この方針を踏まえ、１年次には「**考える力**」「**協力する力**」を中心に学びを進めてきました。その一例が、ゼミ生全員で協力してボードゲームを制作した活動です。これはアクティヴラーニングの実践であり、協働を通じて主体的に学ぶ経験となりました。

2. ２年次に求められる力

２年次に入ると、就職活動や編入試験対策など、新しい世界に踏み出す準備が本格化します。この段階で必要性が高まるのが「**前に踏み出す力**」です。キャンパスの外に出て、実際の現場で体験型学習を行うことは、この力を養うための絶好の機会となります。

しかし一方で、現在のゼミ生にとっては、この「前に踏み出す力」を要する学習は心理的なハードルが高いこともわかっています。実際に、社会人基礎力を測定する調査のデータからも、他の力に比べて「前に踏み出す力」の相対的な低さが示されています。

3. 「ちょっとした体験」学習の導入

そこで、いきなり本格的な体験型学習に取り組むのではなく、ハードルを下げた形で**心理的安全性**を確保しつつ、小さな体験を積み重ねる工夫が必要です。その発想から生まれたのが、「ちょっとした体験」学習です。

この学習は、誰もが無理なく挑戦できる範囲のアクティビティを通じて行うものであり、心理的な負担が少ないのが特徴です。たとえば、地域での簡単な交流活動や学内での小規模な挑戦など、身近で取り組みやすい活動を指します。

4. 小さな一歩から大きな成長へ

こうした「ちょっとした体験」の積み重ねによって、学生は少しずつ「前に踏み出す力」を身につけることができます。そしてその先に、本来の体験型学習へとつながる発展的な学びが期待されます。すなわち、小さな一歩の積み重ねが、大きな成長の礎になるのです。

2.小江戸川越の「現在」と「歴史」、その「魅力」

みんなで話し合った結果、
川越に行くことになりました。

川越市の現状と歴史的魅力

1. 現在の川越市

川越市の人口は約35万2,910人で、主な産業は農業、サービス業、観光業です。特に「小江戸」と呼ばれる歴史的な町並みを活かした観光業は年間を通じて多くの観光客を集め、地域の経済を支えています。しかし、少子高齢化による労働力不足や交通渋滞、財政悪化が課題となっており、持続可能なまちづくりが求められています。

2. 歴史的背景

川越は古墳時代から人が住み、平安時代には荘園として発展しました。鎌倉時代に川越城が築かれ、戦国時代には関東の軍事拠点として重要視されました。江戸時代には城下町として栄え、舟運により物資が流通、「小江戸」と呼ばれる町並みが整えられました。明治期の大火を経て「蔵造り」の町並みが復興し、鉄道の開通で東京との交流も盛んになりました。

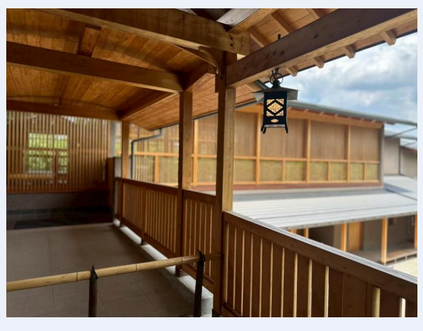
3. 戦後から現在へ

戦後は江戸情緒を残した町並みが観光資源として活用され、1980年代以降に本格的な保存と観光振興が進みました。「時の鐘」「喜多院」「川越氷川神社」などの名所や、川越芋を使った菓子、菓子屋横丁の食べ歩きなどが人気を集めています。東京から電車で30～50分という好立地により、国内外から多くの観光客が訪れ、国際的な観光都市としての地位を築いています。

3.氷川神社でおみくじを引いてみた！

氷川神社の歴史について

川越氷川神社は、約1500年前に創建されたと伝わる歴史ある神社です。川越城が築かれたころから城下町の守り神としてあがめられ、江戸時代には川越藩の歴代藩主にも大切にされました。ご祭神には夫婦の神様が含まれていることから、縁結びや家庭円満のご利益があるといわれ、多くの参拝者が訪れています。境内には日本最大級の木製の鳥居が立ち、夏になると風鈴が境内に飾られ、涼やかな音色と美しい光景が人気を集めています。



氷川神社のおまもり

川越氷川神社は「縁結び界最強」とも称される、恋愛成就で有名なパワースポットです。中でも人気なのが「鯉みくじ」で、赤い鯛の「一年安鯛みくじ」は一般的なおみくじ、ピンクの「あい鯛みくじ」は恋に特化しており、運勢だけでなく出会いの時期や相性の良い相手も教えてくれます。季節によっては白や青の限定色も登場します。また、巫女が拾い集めた小石を麻の網で包み、神職が毎朝お祓いをして奉製する「縁結び玉」は、良縁を願う特別なお守りで、毎日先着20名限定で無料配布されています。さらに、願い事や思いに合わせて選べる「縫いつけまもり」や、新たな出会いを求める人のための「であいこい」など、魅力的なお守りが揃っています。

おみくじ体験

氷川神社には、さまざまな種類のおみくじがあります。たとえば、「鯛みくじ」や「あい鯛みくじ」、「川越いもみくじ」などがあり、どれもユニークで見た目にも楽しいものばかりです。私はその中から「あい鯛みくじ」を選びました。

このおみくじは、普通のおみくじのように手で引くのではなく、専用の小さな釣竿を使って釣り上げる形式になっています。実際に釣りをするような感覚で、わくわくしながら引くことができ、とても楽しい体験でした。釣り上げたおみくじの結果は「小吉」でした。中には、花言葉や出会い、恋愛の進展、相性など、恋愛に関する内容が丁寧に書かれていて、読んでいて前向きな気持ちになれました。氷川神社は縁結びで有名な神社ということもあり、恋愛にまつわるおみくじが多いのが印象的でした。

この体験を通して、ただお参りするだけでなく、自分の気持ちを見つめ直す良い機会にもなりました。次に訪れるときは、他のおみくじも引いてみたいと思います。

4.菓子屋横丁で、煎餅を焼いてみた！

小江戸川越　和菓子の街について

小江戸川越に存在する『和菓子の街』こと「菓子屋横丁」について説明します。

まず、「菓子屋横丁」の始まりは昔々明治時代にて鈴木藤左衛門が江戸っ子好みの駄菓子を製造し、川越で菓子屋を開業し販売した事がきっかけであります。

お菓子は江戸っ子が好む気取らない物であり、それが評判となり、弟子達が暖簾分けをしてお店を増やしていき、多種多様な駄菓子の店が並び、今の菓子屋横丁となりました。

後の1923年の関東大震災では、東京の菓子製造業が大打撃を受けた際は、川越の菓子屋横丁が製造と供給を担う事で最盛期を迎えました。

その最盛期における昭和初期では、70件以上の店舗となり、伊勢や名古屋に並ぶ菓子の一大産地となりました。

昭和30年以降は大量生産、大量販売の時代となった際には手作り菓子の需要が減り店舗数も減少し、少々衰退していましたが、川越が観光地として有名になり、昔ながらの懐かしい駄菓子を求める観光客が増えた事で再び賑わいを見せ、現在では約20件の店舗が並び、石畳の通りには昔ながらの製法で菓子を作り続ける街や、食べ歩きに向いたお店が並んでいます。

煎餅焼き体験

私は「十人十色」という煎餅焼き体験が出来るお店で煎餅焼きを体験しました。

醤油、枝豆、海老の3種類のお煎餅を自分の好きな順で焼いて、中でも1番大きい煎餅を見て店員さんが腕前を素人や超人などの判定をするというシステムで、私は1番大きく焼けた海老煎餅で超人判定を貰えました。

自分で焼いた3枚のお煎餅とオマケでもう1枚のお煎餅を貰えて凄く嬉しかったです。因みにお煎餅は持って帰って家族で美味しく頂きました。

その後、店員さんから数学に関する以外な知識を教えて貰い、その後菓子屋横丁を見て周り、狐のお面を買って、川越の街並みを見ながら歩いて行き、最終的にガラス細工のお店（蜻蛉玉が作れる体験も出来る所）でお開きになりました。

川越での出来事は、街並みをゆっくり眺めたり、色々な体験が出来たりととても充実した1日でした。

また川越に行く機会があれば、もっと色々なことを体験してみたいです。

5.醤油づくり体験について調べてみた！

川越　醤油の町

川越藩の穀倉地帯として栄え、豊かな自然に恵まれた川島の地で醤油作りが始まりました。江戸時代から続く老舗の醤油店の蔵が現存しています。1893年の川越大火で被害を免れた松本醤油商店の醤油の仕込み蔵は都市景観重要建築物に指定され、店蔵は市の有形文化財です。松本醤油商店は明治時代に創業し、江戸時代から醤油蔵の使用を続けています。松本醤油商店と共に、笛木(金笛)醤油も有名です。笛木醤油は寛政元年(1789年)創業で川島町(埼玉県　比企郡に属する町)で醤油作りを始めました。

機械化が進む現代でも、手作業で丁寧に醤油作りが行われています。江戸時代から続く伝統的な製法で、じっくりと時間をかけて発酵・熟成させます。天然醸造の醤油作りは杉の木桶に麹菌や酵母菌が棲みつく「蔵つき酵母」によって行われ、独特の風味が生み出されています。じっくり熟成された醤油は、香り高くまろやかな味わいが特徴です。

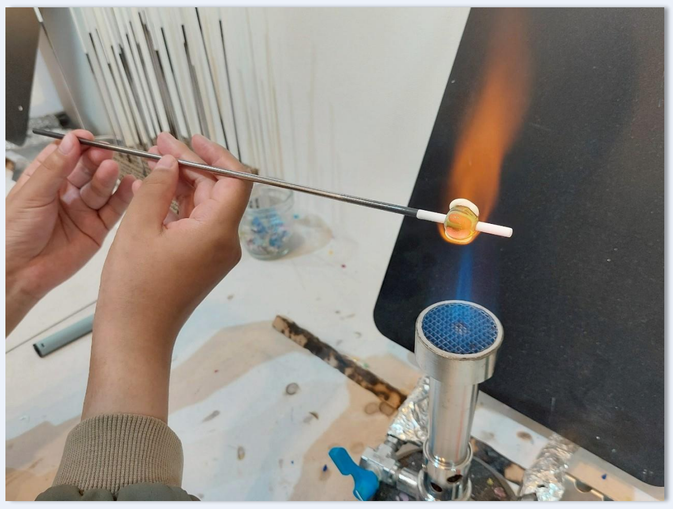
醤油づくり体験

川越では、古くから続く伝統的な醤油づくりを実際に体験することができます。まず、大豆や小麦といった原料についての説明を受け、醤油の歴史や発酵の仕組みを学びます。その後、麹を混ぜ合わせたり、もろみをかき混ぜたりといった仕込み作業を体験することができ、発酵の奥深さに触れることができます。

蔵の見学では、木桶の中で発酵が進む様子を間近に見ることができ、独特の香りや職人の手仕事の大切さを実感できます。さらに、蔵元ならではの解説を聞くことで、普段何気なく使っている醤油の価値や背景を深く理解することができます。

最後には、実際に自分が仕込んだ醤油や蔵元の商品を試食でき、川越の食文化を五感で楽しむことができる貴重な体験です。

6.ガラス工房でとんぼ玉づくりを体験した！



とんぼ玉づくり体験

私は川越で自分だけのとんぼ玉を作る体験をしてきました。とんぼ玉を作成する前に、とんぼ玉のベースの色、模様の色、模様の種類(マーブル・水玉・ハート)、玉の大きさなど選ぶことが多かったため、しばらく悩みました。とんぼ玉のベースは青、模様はマーブルで色は白・緑・黄色、中くらいの大きさで作ることにしました。

とんぼ玉はガラス細工のため、ガラスの棒をバーナーの火で溶かして丸めます。熱し過ぎるとガラスが割れてしまうため、一定の速度で回しながら熱しました。回すことに集中してしまいガラスを火から離してしまうこともありましたが、お店の職人さんから優しく指摘を頂きながら作成していきました。程よく形が整ったら、模様の色をのせます。色をのせた段階では、本当にマーブル状に出来るのか？と不安でした。色をのせ終えたら、とんぼ玉全体を熱します。模様ができるように、少し強めに熱しました。徐々に模様が出来上がっていくのを見ると嬉しかったです。

とんぼ玉の作成が終わった直後は全体が茶色っぽくなっていました。とんぼ玉の冷ましが終わり、完成した状態は透き通るような綺麗な仕上がりでした。完成したとんぼ玉はストラップ状にしました。自分だけのとんぼ玉を作れたため、良い経験・思い出になりました。

川越は見る・食べる・体験することにおいて、素晴らしい経験ができるところでした。日本らしさを今一度考えることができました。

7.川越体験を振り返って！

小江戸散策

「小江戸」と呼ばれる蔵造りの町並みは重厚で歴史を感じさせ、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気分になります。通り沿いにはお土産屋やカフェが並び、さつまいもスイーツなど川越ならではの味を食べ歩きしながら楽しめました。シンボルの「時の鐘」は間近で見ると存在感があり、今も鳴り続ける鐘の音が街の歴史を感じさせます。菓子屋横丁では駄菓子屋や昔ながらの玩具が並び、懐かしい気分に浸れました。川越氷川神社では縁結びの神様にお参りし、風鈴が並ぶ参道の美しさに癒やされました。街全体が観光地らしい賑わいを持ちながらも素朴さを残しており、親切な人々のおかげで心地よく過ごせました。歴史と現代が調和した魅力的な街で、次はもっとゆっくり訪れたいと思いました。

氷川神社に立ち寄った後は、ロマン通りの方へ向かって再び歩きました。ロマン通りは昔ながらの街並みが残っていて、レトロな建物やおしゃれなカフェ、小さな雑貨屋などが立ち並んでいます。道を歩いていると、タイムスリップしたような感覚になり、現代と過去が交差する不思議な魅力を感じました。お店をのぞきながら、のんびりと散歩を楽しむことができ、川越の歴史と文化が息づいている街だと改めて実感しました。

その後、街並みが江戸時代の雰囲気を残す小江戸川越の蔵造りの通りを散策しました。風情ある町並みの中で、私は「せんべい焼き体験」を見ました。初めは火加減や焼き加減が難しそうでしたが、3枚目くらいからだんだんコツをつかんでいて、きれいな焼き色に仕上がっていました。香ばしくてとてもいい香りがしました。

最後に、私たちは川越の古い町並みを散策しました。歴史を感じさせる建物や景色が多く、まるでタイムスリップしたかのような気持ちになりました。そして、川越の有名な観光名所である「時の鐘」も見学しました。「時の鐘」は江戸時代から時を告げてきた歴史ある建物で、その存在感に感動しました。

今回の川越の旅では、伝統と文化に触れながら、普段はできないような貴重な体験をたくさんすることができ、充実した一日になりました。

三國ゼミ2年生メンバーで集合写真！